

Fukuoka University MEDICAL SCIENCE NEWS

No. 77

編集・発行
福岡大学医学会
福岡大学医学部内

福岡大学医学会ニュース

福大に在籍して 本当に良かった！

福岡大学名誉教授 喜久田 利弘



41歳の助教授から23年4か月間、福岡大学医学部に在籍させていただきました。福岡大学関係諸氏の皆様、大変有意義な期間を有り難うございました。そして大変お世話になりました。

福岡大学で口腔科学研究を行い、口腔外科の臨床、後輩の育成と学生教育に携わりました。研究は臨床で多い顎矯正手術前後の機能変化、口腔外科術後の有害事象(腫脹と疼痛)の軽減法、そして局所麻酔下の歯科外科術時の不安解消法(静脈内鎮静法)、扁平上皮癌細胞の超音波による殺細胞効果などを大学院生と一緒に行いました。臨床系講座の先生、基礎や他学部の先生方のご協力のお陰と感謝しております。口腔顎顔面外傷では、救命救急センター、総合診療部、麻酔科や形成外科の皆様のご協力で治療を行うことができました。有病者の口腔外科治療では、診療各科のエキスパートの先生方のご助言とご協力をいただき安全で温かい治療ができました。

福岡大学赴任時の入院患者数は年間50人程度でしたが、2017年は350人まで増加しました。外来患者数も増加し、診療が夕方になる状態でした。福大病院でしか診ることができないような、治療に困窮する患者さんが多くいましたが、多くの先生方や多職種の

手助けもあり、安全・確実で、そして優しい治療ができました。

現在、総合病院口腔外科で部長として診療に携わっています。地域の開業医の先生方との距離は非常に近い存在となり、多くの紹介患者さんを診ております。しかし、ひとり部長なので毎日、患者さんに追われているのが現状です。心地よい汗をかいています。病院勤務で重要なことのひとつに病診連携があります。診療所で診れない患者さんを快くいつでもお引き受けすることが我々の仕事です。遅くなりましたが、福大で研鑽した自分は今、地域の中で働いています。私が役に立つ地域があることと、必要とされる人材であったことに幸せを感じています。研究の時間はとても少なくなつて残念です。日々ぼちぼちの研究ですが、若い研究者にまけないセレンディビティがあると信じて牛歩しています。

教授会の先生方、医学部長先生、病院長先生、そして福岡大学の皆様、心から感謝致しております。福大に在籍して本当に良かったです。

福岡大学医学部のご発展を遠くの地から期待の眼差しで観ております。

福岡大学 筑紫病院の28年間

福岡大学名誉教授 松井 敏幸

平成30年3月で福岡大学筑紫病院消化器内科を退任しました。40歳で赴任し65歳で教授職を退任し、65歳から3年間は臨床医学研究センターに所属し、その間に学会主催など幾つかの活動を行いました。それらの開催が完全に終わり、学会役員もほぼ終了したため退任しました。28年間の病院と医学部における思い出について少し触れてみたいと思います。我々の科では同門会誌を発行していますから、毎年の活動の記録は十分に残っています。

ここで小生のモットーを述べてみます。①病院機能が地域の要請に応えていること。②消化器内科の活動が全国レベルにあること。③臨床研究が活発であること、の3点に収束されます。入院患者数、外来患者数、入院日数、稼働額を病院記録に基づいて振り返りますと何れも良好な指数で推移していました。最近10年間でこれら指標は著しく改善されており、過去最高を更新し続けているものもあります。特に新病院の稼働開始後は物理的スペースに余裕が生まれ、収容人数、検査件数などに好影響がありました。この他には寄付講座2件などでも医業外収益として貢献できたのではないかと考えます。地域医師会との関連も深め地域

医療支援病院としても評価されています。教室の活

動が全国規模か否かを諮るには全国医学会の役員、学会開催、演題数などがありますがいずれも多くの人に支えられて円滑に活動できました。全国学会は内視鏡学会、大腸肛門病学会など数回、地方会も数多く開催できました。これの開催にあたっては教室員に迷惑をかけた面もありますが、貴重な経験と受け取る人も多いようです。教室員に関しては、比較的入局者数もあり、診療面と臨床研究に十分な時間を設けることが出来ました。博士論文や臨床研究論文は大切な財産ですが、徐々に書き慣れてきた人もあり、これからの進展に期待しています。最後に、副院長をしている時期には医学部教授会にも参加し、多くの方と交流もでき、感謝しています。

医学部のますますの発展に当科が貢献できることを祈念しています。



福岡大学医学会 第78回例会および第41回総会（報告）

■日時：平成30年9月26日（水）17:30～19:15 ■場所：医学部臨床大講堂

1. 第78回福岡大学医学会例会

【進行】集会幹事 川寄 弘詔

- 1) 開会の辞 集会幹事 川寄 弘詔
- 2) 会長挨拶 医学部長 朔 啓二郎
- 3) 第20回福岡大学医学会賞受賞論文講演（講演15分 質疑応答含む）
 - ① 講演者… 漆山 大知（産婦人科） 座長… 宮本 新吾
Microbiome profile of the amniotic fluid as a predictive biomarker of perinatal outcome
 - ② 講演者… 岩屋 智加予（内分泌・糖尿病内科学） 座長… 柳瀬 敏彦
Exendin-4, a Glucagonlike Peptide-1 Receptor Agonist, Attenuates Breast Cancer Growth by Inhibiting NF- κ B Activation
 - ③ 講演者… 胡 耀鵬（生理学） 座長… 井上 隆司
Uncovering the arrhythmogenic potential of TRPM4 activation in atrial-derived HL-1 cells using novel recording and numerical approaches
- 4) 第20回福岡大学医学会賞金賞論文投票
- 5) 新任教授講演（講演25分 質疑5分）

講演者… 有馬 久富（衛生・公衆衛生学） 座長… 朔 啓二郎

「エビデンスはいかにして創られるか」



講演された先生方を囲んで
（左から、井上(隆)先生、胡先生、漆山先生、岩屋先生、有馬先生、朔会長、柳瀬先生、川寄先生）

2. 第41回福岡大学医学会総会

- 1) 議事
 - ① 報告事項 ② 平成29年度会計報告および平成30年度予算案 ③ その他
- 2) 第20回福岡大学医学会賞授賞式
 - ① 開票結果発表 ② 授賞式
- 3) 閉会の辞

【進行】庶務幹事 中島 衡

【進行】集会幹事 川寄 弘詔

集会幹事 川寄 弘詔

新風

平成30年4月1日付けで
本学へ赴任、昇格された方に
自己紹介を
していただきました。

new phase



歯科口腔外科学
教授
近藤 誠二

平成30年4月より、喜久田利弘教授の後任として歯科口腔外科学講座の教授に就任いたしました。私は平成4年に九州歯科大学を卒業後、岡山大学、島根大学、そして昭和大学と様々な大学病院および関連施設を経験しながら、平成28年4月より福岡大学医学部歯科口腔外科学講座准教授として着任しました。それ以来、福岡大学の口腔医学の診療・研究・教育に努めてまいりました。

昨今の超高齢化社会の進展に伴い、口腔領域の診療に際して感じることは、口腔という局所の問題のみを考慮するだけでは、安心・安全な治療を提供することが難しくなってきたという現実です。すなわち、超高齢化社会における患者さんは、多種多様な基礎疾患、病態が混在していることが多く、口腔外科の治療にあたっては、多くの専門家や多職種連携によるチーム医療が求められます。

そのため私達の講座では、多くの専門家達やコメディカルの方々と対等に渡り合えるだけの医学的知識と手技、およびコミュニケーション能力を向上させて、円滑なチーム医療の実現を目指していきたいと思っています。

口腔医学の診断・診療を通じて社会に貢献し、福岡大学医学部の発展に少しでも貢献できるよう努力してゆきたいと思いますので、今後ともご支援のほど宜しくお願いいたします。



放射線診断部第二
教授
長町 茂樹

平成30年4月より福岡大学病院放射線部第二教授を拝命いたしました。福岡大学病院に赴任し、今年の10月で1年半になります。核医学が専門ですので、診療、研究面で心臓核医学、

脳核医学、PET検査等の腫瘍核医学及び放射性同位元素を用いた内照射治療に幅広く関わっています。脳血流SPECT等の脳核医学検査は認知症患者が増加する中、早期発見のためその役割はますます重要になってきました。心臓核医学検査は、今年度から安定冠動脈疾患に対して経皮的冠動脈インターベンションを行う際には、事前に機能的虚血を証明する必要が算定要件とされる場合があり、心筋血流SPECTの位置付けが重要視されています。さらにFDG-PET検査では新たな保険適応として高安病等の大血管炎が追加されました。また保険医療としては厳しい領域ではありますが、ガイドラインの中で幾つかの悪性腫瘍でFDG-PETが治療効果判定に推奨されています。このように核医学診療は多くの診療科と関わる領域です。幅広く皆さまのお役に立ちたいと考えております。何なりとお申し付けいただければ幸いです。



臨床検査医学
准教授
大久保 久美子

平成30年4月より臨床検査医学の准教授を拝命いたしました。私は臨床検査専門医として活動しております。臨床検査専門医という資格は聞き慣れないかもしれませんが長い歴史があり、新専門医制度の実施に向けてプログラムの整備が進んでいます。臨床検査専門医は19ある基本領域専門医の一つであり、臨床検査が医学や診療における基盤となる分野であることが示されております。

臨床検査専門医の役割は、大きく分けると検査の管理、すなわち信頼できる検査結果産出を保証するシステムの管理と、検査診断学の振興にあります。当院臨床検査部は国際規格ISO15189の認定を受け、品質マネジメントシステムを構築し技術能力を高め維持し分析結果の品質を保証しております。臨床検査専門医はこのような検査部の管理運営に携わり、検査の利用者と検査部を結ぶ役割を担っております。また、検査部専任医師の存在は、検体検査管理加算(IV)の取得に必要です。医学教育において検査診断学は基礎医学と臨床医学を結ぶ学問として重要と言えます。私自身、研修医終了後内科5年と生化学4年の研鑽したことは、現在検査専門医として活動する上で大変役立っております。検査結果から病態を読み解き、正しい診断と治療に結びつける興味深さを、BSLのReversed-CPCで教育するように努めております。今後も臨床検査専門医として尽力していきたいと存じます。よろしくお願い申し上げます。



消化器内科
准教授
竹山 康章

このたび福岡大学病院消化器内科准教授を拝命いたしました竹山 康章です。1992年に福岡大学を卒業。福岡大学第一内科(奥村教授)に入局し、研修医として第一内科(消化管、肝臓、血液、糖尿病、神経)、筑紫病院、第二内科(循環器、腎臓、呼吸器、感染症)を2年間かけて臨床研修を行いました。研修後は大学院(第一内科肝臓研究室)に入学し、“アルコール性肝疾患におけるクッパー細胞が産生する活性酸素の役割”というテーマで学位を取得しました。学位取得後は、消化器内科向坂教授のご指導のもとに“肝内トランスポーターと胆汁うっ滞”についての研究を行い、米国コネチカット州にあるYale大学肝臓病センターでの留学を経て、現在も主に胆汁うっ滞の研究を行っています。

研究に興味を抱いたのは、研修医時代に担当した肝硬変症例でした。肝硬変では最終的に過剰な線維(コラーゲン)に囲まれて肝不全へと進展しますが、コラーゲンは肝細胞の再生に必要な材料であり、“これらのコラーゲンをうまく利用出来ずに、なぜ肝臓はコラーゲンに囲まれるのか、過剰なコラーゲンは溶かせないの?”という疑問からでした。30年経った今でも、肝硬変(肝不全)への有効な治療法はありませんが、今後は再生医療などにより肝硬変が治癒できる時代になると信じています。若い先生方への宿題です。

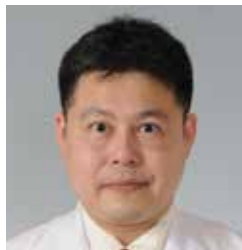
終わりに)1986年に福岡大学に入学してから、七隈界限に通って30年以上です。当時、病院周囲には池と駐車場しかありませんでしたが、今では直結の地下鉄の駅やスターバックスもあり、とっても便利で綺麗な病院になりました。



病理学
准教授
上杉 憲子

生まれは新潟、東京の下町でそだち、大学は筑波大学で、医師としては福岡(九州大学2内科)でスタートし、病理医としては福大が母教室となります。九州医療センターにも一回勤めています。9年前に母校筑波大学にも戻りましたが、今回、縁あって、母教室に復帰をしました。専門は腎炎の病理です。非腫瘍性の血管病理も好きですが、いずれも腫瘍でないという点、検体数も少ないという点から病理の世界では、マイナーで、希少価値がある分野です。もともと福大はこの分野の専門の教授たちがおられ、伝統があります。昨今、腎臓病理の旗を掲げる大学の病理学教室が激減していること

より、教室自体も希少価値があります。この伝統を消さないように頑張りたいと思います。



衛生・公衆衛生学
准教授
吉村 力

有馬久富教授のご推挙により、2018年4月1日より福岡大学医学部衛生・公衆衛生学教室准教授を拝命致しました。私は1998年に福岡大学医学部を卒業し、臨床研修終了後に呼吸器内科に入局しました。大学院は渡辺憲太郎教授の御指導により、睡眠時無呼吸症候群の病態生理について様々な研究に従事させて頂き、2010年に学位を取得致しました。その後京都大学大学院医学研究科呼吸管理睡眠制御学講座の助教として、京都study、長浜studyといった疫学研究に魅せられました。2013年からは九州大学病院睡眠時無呼吸センター講師として、久山町studyに従事し、疫学研究の重要性を学びました。同時に妊婦のむずむず脚症候群の疫学調査を行い、アメリカ睡眠学会にて受賞致しました。2016年から福岡大学に戻って呼吸睡眠医学講座を設立して頂き、睡眠医療の診療・研究・教育に従事させて頂きました。現在の自分があるのも多くの診療科の御協力があってこそこのことで、誠に感謝申し上げます。今回、縁あって福岡大学医学部衛生・公衆衛生学教室の一員に加えさせて頂き、睡眠医療と疫学研究の融合できる機会に恵まれました。Scienceな眼を長期間(Long)持ち、ExcitingなEpidemiologyをPassionな気持ちで行い(SLEEP)、少しでも福岡大学の発展に寄与できるように頑張っていきたいと思います。今後とも、御指導、御鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。



麻酔科学
准教授
東 みどり子

平成30年4月1日付で福岡大学医学部麻酔科学准教授を拝命いたしました。私は平成8年に九州大学を卒業し、九州大学病院麻酔科蘇生科に入局しました。大学病院、福岡市立こども病院、麻生飯塚病院で研修した後、平成12年に大学院へ進学し、循環器内科の研究室で心血管病変形成のメカニズムについての研究で学位を取得しました。修了後は、九州大学病院、済生会福岡総合病院、九州医療センターで主に手術麻酔、手術部業務に携わってきました。また、平成27年には海外留学の機会に恵まれ、ドイツのマインツ大学病院麻酔科で非侵襲的心拍出量モニタリングに関

する臨床研究に携わりました。

福岡大学での勤務は今回が初めてで、不安と期待を胸に、新人のような気持ちでやって参りました。医学部学生への講義や臨床実習、研修医・医員への臨床指導といった教育機関としての大学病院ならではの業務の他、これまで関わる機会の少なかった周術期管理センターでの術前麻酔科診療や、今年度から本格的な導入が開始された無痛分娩などを経験させて頂いています。慣れないこと、わからないことも多々ありますが、山浦教授をはじめ医局員の方々から温かく見守られながら、充実した日々を送っています。



看護学科
准教授
長谷川 珠代

平成30年4月より、看護学科基礎看護学分野准教授に着任しました。公衆衛生看護学が専門で、地域住民の健康を守る保健師の教育や皆が安心して暮らせる地域社会づくりに関する研究を行っています。沖縄県那覇市で保健師を経験し、琉球大学大学院を修了後、出身県にある宮崎大学の教員として勤務をしてきました。

これまで研究として、医療ケアを必要とする人や障害のある人が自分らしい生活が続けられる地域社会を構築するためには、その人を支えている人、すなわち、ご家族や医療・福祉専門職などのケアする人々が健康で元気であることが重要という考えのもと、アートを用いた健康増進イベントを実践し、その効果について検証をしてきました。最近では、医療ケアを必要とする児の父親に対する調査を通して対象理解を深め、必要な社会支援について分析・検討を

しています。

研究手法に“アート”を用いていますが、それは私自身アートが好きで、描画を通した自分の時間を大切にしているからです。福岡県内には様々な美術館があり、展示会などのイベントも多く、とてもワクワクしています。

福岡での活動は全てが“これから”の私ですが、教育・研究などを通して、たくさんの方とつながり、福岡大学や看護学の発展に貢献できる人材に成長していきたいと思っています。

今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



小児科学
講師
石井 敦士

本年度より、福岡大学医学部小児科学教室講師を拝命いたしました。私は平成19年に福岡大学を卒業し、故郷山口県の関門医療センターと山口大学医学部付属病院で初期臨床研修を終了し、平成21年より廣瀬伸一教授が主催する福岡大学小児科に入局しました。小児科専門医取得後は、主に小児神経を専門に小児病棟、NICU、外来で診療させていただきました。また、入局と同時に大学院博士課程に進学し、日本学術振興会特別研究員となり主にてんかんの分子病態を解明すべく、てんかん患者の遺伝子解析を始点とする研究に従事しました。平成25年に学位取得後は、約3年間ほど米国ノースカロライナ州Duke大学、アリゾナ州アリゾナ大学でポスドクを行い、平成29年より福岡大学医学小児科学教室助教として大学病院へ復帰となりました。

現在は、てんかんを主とする小児神経診療と自閉スペクトラム症

医師国家試験結果報告

第112回医師国家試験(平成30年2月10～11日実施)に123人が受験し、101人(新卒83人・既卒18人)が合格しました。合格率は82.1%、新卒のみの合格率は83.0%でした。

看護師・保健師国家試験結果報告

第107回看護師国家試験(平成30年2月18日実施)に106人が受験し、106人(新卒104人・既卒2人)が合格しました(合格率100%)。また18人(新卒)が第104回保健師国家試験(平成30年2月16日実施)を受験し、18人全員合格しています(合格率100%)。

祝 第20回 福岡大学医学会賞

50音順



漆山 大知

Microbiome profile of the amniotic fluid as a predictive biomarker of perinatal outcome



岩屋 智加予

Exendin-4, a Glucagonlike Peptide-1 Receptor Agonist, Attenuates Breast Cancer Growth by Inhibiting NF- κ B Activation



胡 耀鵬

Uncovering the arrhythmogenic potential of TRPM4 activation in atrial-derived HL-1 cells using novel recording and numerical approaches

や注意欠如多動症といった子供の発達障害を専門とし、日々子供たちから多くのことを学ばせていただいています。研究では、米国時代から継続して次世代シーケンサーを駆使したてんかんの遺伝子研究を継続し、現在は治療研究の準備を進めています。今後も、臨床と研究を両立させ、加えて教育面でも医学生や若手医師へ大学での医師の働き方の一つを示し、微力ながら福岡大学医学部に貢献できるよう努力します。今後ともご指導、ご鞭撻のほどを宜しくお願い申し上げます。



衛生・公衆衛生学
講師
前田 俊樹

2018年4月より福岡大学衛生公衆衛生学の講師を拝命いたしました前田俊樹と申します。私は2004年に福岡大学を卒業後、沖縄県立中部病院にて5年間、その後1年間福岡大学血液腫瘍内科にて臨床に携わりました。しかし、次第に医療政策やマネジメントについての勉強がしたいという思いが強くなり、2010年に社会人大学院である九州大学医学系学府医療経営管理学に入学しました。そこで3年間医療政策やマネジメント等医療経営管理について学び、医療経営学修士を取得しました。その後博士課程に進級し、馬場園明先生のご指導の元、主にレセプトやDPC等の医療管理データを使用して医療資源の配分や医療の質、及び医療経済学的な研究を行い2017年3月に九州大学にて博士号を取得いたしました。2017年4月より縁あって福岡大学衛生公衆衛生学にて有馬先生の元で健診データやレセプトデータを用いた研究に携わせて

いただいております。若輩者ではございますが、皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



小児科
講師
野村 優子

廣瀬伸一教授の御推挙により、平成30年4月に福岡大学病院小児科講師を拝命致しました。父は整形外科医、母は眼科医をしておりますが、私は福岡大学医学部に入学後、小児科医になりたいと思うようになり、平成11年に卒業後、福岡大学小児科に入局致しました。その後、福岡大学病院や筑紫病院のほか、九州厚生年金病院(現JCHO九州病院)や田川市立病院などで部外研修を行い、小児血液・腫瘍領域を専門とすることを志しました。平成17年からは福岡大学大学院に進学し、主にリンパ腫の研究をしながら学位を取得致しました。大学院卒業後は九州がんセンター小児科で部外研修を行い、造血幹細胞移植医療を中心に診療経験を積ませていただきました。平成22年に助教として福岡大学病院へ戻り、平成27年4月に7-4講師に就任致しました。

平成5年に入学して以来、気がつく25年近く福岡大学に所属しており、時の経つのが早いことをつくづく実感しております。微力ですが、小児血液・がん専門医、指導医としての経験を生かし、臨床、教育、研究の面から福岡大学の小児医療に尽力していきたいと考えております。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

長い間ありがとうございました

平成30年3月1日～平成30年9月30日までに退職された方

- | | | |
|-----------------------------|--|-------------------------------------|
| ■ 喜久田 利弘 教授 (歯科口腔外科学) | ■ 溝口 幹朗 講師 (病理学) | ■ 矢野 豊 講師 (筑紫病院消化器内科)
以上、6月30日付け |
| ■ 黒木 求 教授 (看護学科) | ■ 梅田 尚靖 講師 (眼科) | |
| ■ 岩下 明德 教授 (筑紫病院臨床医学研究センター) | ■ 佐光 英人 講師 (循環器内科) | |
| ■ 松井 敏幸 教授 (筑紫病院臨床医学研究センター) | ■ 平塚 昌文 講師 (呼吸器・乳腺内分泌・小児外科) | ■ 城田 京子 准教授 (産科婦人科学)
以上、7月31日付け |
| ■ 小川 皓一 准教授 (解剖学) | ■ 松下 満彦 講師 精神神経科 | |
| ■ 深江 治郎 准教授 (神経内科学) | ■ 樋口 仁美 講師 (筑紫病院耳鼻いんこう科)
以上、3月31日付け | |
| ■ 池田佐知子 准教授 (看護学科) | | |
| ■ 久野 敏 准教授 (病理学) | | |

教室だより
Letter from a classroom



臨床検査医学

臨床検査医学講座は、2008年より今日まで約10年間、松永 彰が3代目主任教授を務めています。また、福岡大学病院臨床検査部長も兼務しています。

臨床検査医学の領域には、血液・尿・各種体液などをもとに解析を行う検体検査と心電図・エコー・脳波・呼吸機能などの生理検査が含まれます。非常に幅広い領域であり、外科・内科など全ての診療科と関係します。また、全国の臨床検査医学領域の先生方と協力した活動を行っています。講座としてのスタッフは少ないのですが、臨床検査部を含めると医師・検査技師あわせて約60名です。

福岡大学病院臨床検査部は、検体検査および生理検査部門ともに精度の高い信頼できる検査結果や検査情報を診療各科に提供し、患者さんの治療に役立つよう努めています。主に新館2階の中央採血室で血液・尿検体の採取を行い、本館の検体検査部門に搬送後ただちに検査が開始され、自動分析システム等により、尿・血液・生化学検査項目の多くは採取後1時間程度で検査結果を報告しています。また、特定機能病院として高度な医療を支援できるように、24時間緊急検査体制で夜間や休日にも信頼性の高い検査を提供できるようにしています。生理検査部門では、非観血循環機能検査のTreadmill負荷、ホルターなど各種心電図、PWV/ABI、心エコー、血管エコーなどを担当し、呼吸機能検査では、スクリーニング検査以外に肺コンプライアンス、肺拡散能、残気量測定、さらに睡眠時無呼吸検査など精密な情報を提供しています。脳波検査ではデジタル脳波計による解析を行い、てんかんなど神経疾患の診断治療等に活かしています。標榜科としての臨床検査科の診療は行っていないが、採血から測定までの検体検査

の評価と機能向上、精度管理、機器更新、コンサルテーション、臨床各科との連携などに対応した診療業務を行っています。また、2014年11月には国際認証であるISO15189を検体部門で取得し、高い評価を受けています。4年後の今年には更新の審査を受けました。今回は生理・検体両部門で国際認証を取得する予定です。

研究としては、スタッフ3名のうち小牧 智先生が生理検査系の心機能、不整脈に関する研究、大久保 久美子先生が高インスリン血症糖尿病に関する遺伝子解析などの研究、松永 彰が脂質異常症の解析、NGSを用いた遺伝子解析の研究などを行っています。

教育としては、医学部3年生、4年生、6年生に対する講義、5年生の臨床実習(Clinical Clerkship)を行っています。特に4年生の検査診断学は当教室の主要講義であり、また、Clinical Clerkshipでは、輸血部の熊川 みどり先生と協力して毎週学生を受入れ、スタッフ全員で指導しています。

今後も、各科と協力して臨床・研究・教育に取り組みたいと考えています。



教室だより
Letter from a classroom



消化器外科学

消化器外科は初代 山下裕一教授の後任として2016年4月より2代目として長谷川傑が担当しております。現在、担当分野として上部消化管・下部消化管・肝胆膵・内視鏡治療などの領域を担っております。主に胃癌や大腸癌、肝臓癌や膵臓癌などの消化器癌を中心とした悪性疾患を扱っておりますが、食道アカシアやヘルニアなどの良性疾患、腹膜炎、膵炎、胆嚢炎、虫垂炎、腸閉塞などの急性腹症などにも対応しています。スタッフは14人、助手が10人の体制で外科治療のみならず、内視鏡を用いた治療(ESD,EMR,ERCPなど)や抗癌剤治療も行っております。

当科のモットーとして、3つの力として①臨床力、②人間力、③研究力を有する人材を育成することを考えています。第一に外科医として手術を中心とした、「患者さんにメスを入れる」侵襲的治療でいかに患者さんに貢献できるか、手術の技術のみならず、診断から治療方針の決定まで高いレベルの診療を行うことを目指しております。最近のトピックとしては食道癌・胃癌・直腸癌で保険適応となったロボット手術をスタートしました。腹腔鏡手術と同様に小さな穴から手術を行うもので

すが手術器具の操作性が向上しており、より繊細な手術が行えると思います。

2番目の人間力として、責任感があり、怒らず、面倒見のよい、患者さんからも学生からも同僚からも信頼される医師を育成したいと考えています。学会発表や患者さんへの説明、学生に対する講義など様々なプレゼンの場で聞き手を意識してわかりやすく発表、解説、説明できる「コミュ力」を高めることにも努めております。他科の先生ともうまくコラボレーションして患者さんに良い診療を提供できるように努力してまいります。

最後の研究に関しては、臨床研究を中心に各専門領域で力を入れて取り組んでいるテーマに関して研究を進めております。癌の治療の効果予測や予後予測のためのバイオマーカーの研究や近年脚光を浴びるようになった免疫治療の効果を解明する基礎研究も初めており国内外に発信する力も高めてゆきたいと考えています。これらの3つの力を持った医師を育成し、福大病院に貢献できるように今後も努力してまいります。どうぞよろしくおねがいします。



学位取得

次の方は、福岡大学より博士（医学）を授与されました。

課程修了による学位取得者

- | | | | |
|---------------------|----------------|-----------------|------------------|
| ・小島 直子（人体生物学系） | ・小野澤里衣子（病態構造系） | ・古賀 さよ（病態機能系） | ・荒木 陵多（先端医療科学系） |
| ・スウェインアンソニー（人体生物学系） | ・横手 顕（病態構造系） | ・成平 恭一（病態機能系） | ・漆山 大知（先端医療科学系） |
| ・増井 信太（生体制御系） | ・石井 聡大（病態機能系） | ・松尾 文（社会医学系） | ・濱之上 暢也（先端医療科学系） |
| ・三橋 泰仁（病態構造系） | ・石松 哲郎（病態機能系） | ・上田 容子（先端医療科学系） | ・後藤 昌希（先端医療科学系） |
| ・光武 尚史（病態構造系） | ・秋穂 俊輔（病態機能系） | ・椎葉美千代（先端医療科学系） | ・松岡 優太（先端医療科学系） |
| ・小川 さや香（病態構造系） | ・入江 悠平（病態機能系） | ・二見真紀人（先端医療科学系） | |

[平成30年3月15日付け]